

今日のトピック 年内で量的緩和を終了するECB（2018年9月） イタリアの予算案と保護主義の行方などに警戒

ポイント1 金融政策は据え置き

量的緩和策は予定通り年内終了

- 欧州中央銀行（ECB）は13日の理事会で、金融政策を据え置きました。政策金利、中銀預金金利（金融機関が余剰資金を預け入れた際に適用される金利）は、それぞれ0.00%、▲0.40%です。量的緩和策である資産購入プログラムは、10月以降は月額150億ユーロと現行から半減した後、2018年末に終了する予定です。

ポイント2 ユーロ圏景気は広く拡大

ECBの経済予想はやや下方修正

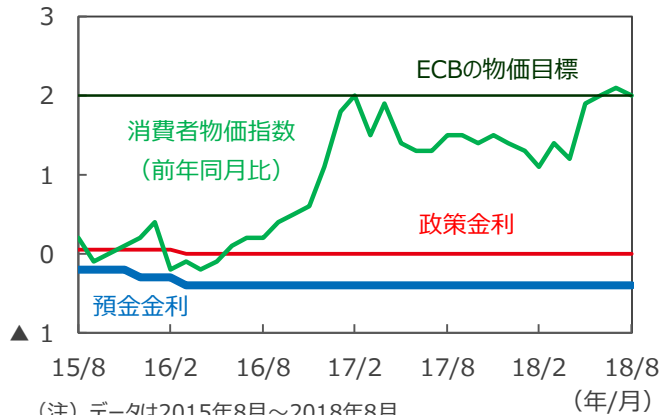
- ECBのドラギ総裁は記者会見で、ユーロ圏の景気は広い範囲で拡大し、緩やかな物価上昇が進むとの見方を示しました。一方で、保護主義の高まりや新興国市場の脆弱性、イタリア財政による金融市場のボラティリティの高まりに警戒感を示しました。
- ECBは、経済や物価の見通しをやや下方修正しました。実質GDP成長率は、2018年は前年比+2.0%（前回予想は+2.1%）、2019年が同+1.8%（同+1.9%）、エネルギー・食品を除いたコア消費者物価指数は、2018年は同+1.1%（同+1.1%）、2019年は同+1.5%（同+1.6%）となっています。

今後の展開

保護主義の高まりやイタリア財政などに警戒

- 米国の保護主義については、欧州連合（EU）は7月下旬に自動車を除く工業製品の関税撤廃に向けた交渉開始などで合意しました。9月に入り閣僚級の交渉が始まりましたが、双方の思惑には違いが見られ、合意に向けた道筋はまだ見えません。

(%) 【ECBの政策金利とユーロ圏の消費者物価】



▲ 1

(注) データは2015年8月～2018年8月。 (年/月)

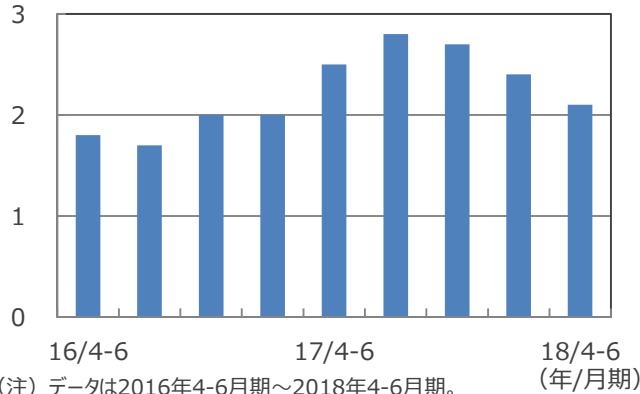
政策金利はMain Refinancing Operations金利。

預金金利はDeposit Facility金利（翌日物）。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【ユーロ圏の実質GDP成長率】

(前年同期比、%)



(注) データは2016年4-6月期～2018年4-6月期。 (年/月期)

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- EU域内では、イタリアのポピュリズム政権が同国2019年予算に政権公約を盛り込むことで、財政が悪化すると懸念されています。9月中には予算案の内容が示され、EU議会で議論される予定ですが、EUの財政ルール（財政赤字はGDP比3%以内）が遵守されるのか、注目されます。

ここも チェック!

2018年8月30日 2つの懸念材料を抱えるユーロ圏経済（2018年8月）
2018年6月20日 難航が予想される『イタリア新政権』の政策実現

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。